

発行：2017年9月 ニュースレターNo84. WEB版 No9

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.84

発行所 一般社団法人 日本助産学会

一般社団法人 日本助産学会ニュースレター

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第2ユニオンビル 4F 株式会社ガリレオ
学会業務情報センター内
TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852
E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp
代表者 高田 昌代



第32回日本助産学会学術集会のご案内

第32回日本助産学会学術集会長 村上明美

第32回日本助産学会学術集会は、メインテーマを「母子と女性を守る助産の知と技、そして連携」としました。安全や安心に配慮しながら女性の生涯を通じて健康を支援するために、我々助産師にできることは何かについて、参加者の皆様とともに追究していきたいと考えています。

現在、わが国の少子化の進行は未だ止まらず、生まれてくる子どもの命の重みはどんどん増すばかりです。一方で、超高齢社会も進行の一途をたどっており、今後、女性の健康寿命をいかに延伸していくかは国の大きな政策課題となっています。

本学術集会では、我が国がこのような人口構造の変化に直面する中で、母子や女性に身近に寄り添うことのできる助産師が、命の重さを真摯に受け止め、安全で安心なケアを提供する自らの役割について考える機会となることを期待しています。

プログラムは、テーマに基づき「母子や女性を守る」「助産の知と技」「連携」をキーワードに、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、交流集会、ランチョンセミナー、市民公開講座等を企画しています。また、一般

演題では、助産に関する研究や実践について、参加者の皆様と活発なディスカッションを展開していただき、相互に学びを深めることができると考えています。

会場のパシフィコ横浜は、港町横浜を象徴するみなとみらい地区に位置しています。参加者の皆様には、学術集会での学びとともに、ショッピング、グルメ、観光等、横浜の雰囲気を存分に味わっていただけるものと確信しています。学術集会の会場におきましても、様々な趣向を凝らして皆様を歓迎いたします。オープニングは、本格的なSAMBAのダンスと音楽で皆様をお出迎えします。また、懇親会は、横浜を象徴する景色で有名なインターコンチネンタルホテル（パシフィコ横浜に隣接）に会場を移し、素敵な夜景を眺めながら参加者の皆様と親交を深めていただく予定です。

なお、学術集会前日3月2日（金）12時～13時30分に、会員の皆様が参加可能な「公開社員総会」を開催いたします。事前登録にて「公開社員総会」への参加の意向を確認できた方には軽食を準備いたします。ぜひご参加ください。皆様にとって実り多き学術集会となりますことを願い、ご参加を心よりお待ちしております。

会期：2018年3月3日（土）～4日（日）、プレコングレス 3月2日（金）

会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）

演題登録期間：2017年7月3日（月）～9月28日（木）

事前参加登録：2017年9月4日（月）～2018年1月12日（金）

2017年 International Confederation of Midwives Council Meeting 国際助産師連盟 評議委員会報告 (2014-2017 年會期)

国際委員会 有森直子 小黒道子

1.はじめに

3年に一度開かれる第31回 ICM (International Confederation of Midwives) Triennial Congress (学術集会) の開催 (2017年6月18-22日) に先立ち、本会の最高決議機関である Council Meeting (評議委員会) が、2017年6月13-16日の4日間、カナダオンタリオ州トロント市のウエスティン・ハーバーキャッスルホテルで開催された。

評議会は、ICM 学術集会の開催に合わせて、3年に一度開かれる。ICM の加盟団体は、114か国、130 団体。評議委員は、各団体から2名の参加が許可される。一つの国から複数団体が加盟しているのは、10か国 (イギリス、アメリカ、フランス、モロッコ、ノルウェイ、フィリピン、ソマリア、スペイン、ウガンダ、日本) あり日本からは、3団体 (日本助産師会、日本看護協会、日本助産学会) が参加した。また、議決権・発言権が無いオブザーバーは、会議への参加の承諾後、入室が許可された。

日本からは、本学会から高田昌代理事長、有森直子国際委員長、オブザーバーとして、小黒道子国際委員が参加した。

4日間で審議される議事は、膨大な量に上り、事前資料はメールにて ICM 事務局から各団体に配付され、議題の重要事項については、事前に各団体の理事会等で審議された。また、評議委員会の当日資料は、iPad に入力されて配信された。日本看護協会は、事前の配布資料を和訳しかつ同時通訳の方が同行していた。会場内では、英語、フランス語、スペイン語の同時通訳の対応がなされていた。司会進行を務める現理事長 (2014-2017) の Ms. Frances Day-Stik(UK) は、常にゆっくりと話すことを心がけ、英語を母国語としない評議委員へのランゲージバリアーへの配慮に努めていた。

2.評議会の概要

評議会の議事録に残された議決事案を以下にあげる。

<今期 2014-2017 の総括>

初日には、評議委員の参加者の承認や今回の評議委員会で検討すべき議題 (Agenda) が確認され、新規登録の20か国 (団体) の参加が認められた。様々な国や団体が参加する評議会ということで、合意形成の手段としての投票の電

子的な取り扱い、進め方についても丁寧な説明が行われ、定款等に沿って議事を進めることも確認された。そして、2014年からの3年間の委員会活動の報告と承認がなされた。今期 2014-2017 の戦略的指針 (Strategic Directions) として、以下の5つが説明された。1. 助産師教育、継続教育プログラム、そして教育者としての助産師の役割の強化。2. 助産師の専門職としての自律性を高め、助産の規則・教育・実践が助産師によって計画され実施されることを確実にする。3. エビデンスに基づいた助産実践を増やし、助産研究を促進する。4. 助産術の提唱と、サービスの方向性を導く政策立案において、助産師の影響力を拡大させる。5. 共通の関心や利益を共有する関係機関やネットワークとの戦略的な協働の実現。

ICM のガバナンスについては、加盟団体、委員会、評議会、事務局の関係性が説明された。また、今期の理事と地区理事の紹介も合わせて行われた。

<学会の運営について一特に財務関連一>

財政面では、2015年の収入の26%を占めた会費が、2016年には、17%と減少し、会費を納められないために4団体が退会していた。2016年は、寄付収入が63%を占めていた。理事会からは、節約の手段として、今後、評議会を4日から2日半に、理事会会議回数も減らし、事務局の人件費を節約することが報告された。これを受け、会場からも活動費を増やし支援してほしいという声が上がっていた。

<地区の分け方と地区理事の選挙一日本代表の当選！一>

二日目には、地区理事の選挙が地区毎に行われた。日本は Asia-pacific region に属している。Asia-pacific region の理事は、今期は、Ms. Sue Bree(ニュージーランド)、Ms. Mary Kirk(オーストラリア)、Ms. RaFat Jan(パキスタン)の3人が務めた。

次期 (2017-2020) の地区理事には、5名が立候補し、日本からは谷口初美氏が立候補した。候補者は2分程度の自己紹介をし、投票がなされた結果、Ms. RaFat Jan(パキスタン)再任、谷口初美氏 (初:日本)、Ms. Emi Nurjasmi Indomo (初:インドネシア) が選出された (得票順)。

地区の分類は、現状の4つから WHO の地区

分類に合わせて6つとし、具体的には、加盟団体の多いAsia-pacific regionが2つに分割される。これに伴い、2017-2018を移行期間とした。

<次期(2017-2020)会長・副会長の選挙>

会議四日目は、理事長、副理事長、会計の理事の投票が行われる。それに先立ち三日目には各候補者が、壇上でプレゼンテーションを行った。

今回は、会長候補者が3名、副会長候補者が2名、会計が1名であった。過半数を持って採決とし、投票の結果、会長にはオランダのMs. Franka Cadee、副会長にはニュージーランドのMs. Mary Kirk、会計にはスイスのMs. Ingela Wiklundが選出された。

<投票権についての議論 一国で一票とするか否か>

本議題については、加盟団体からの提案として議題に上った経緯が理事から説明された。本件については、選択肢として①複数の団体を各国から参加登録とし投票権を持つ(現状)、②各国一団体を参加登録とし投票権を持つ(定款改正)、③現状の団体の登録は認めるが、投票権は一国一つ(定款改正)が、説明された。今回は、意見交換のみとし採決はしなかった。

<所信声明(Position Statement)の既存の見直しと新規採択>

ICMの所信声明(Position Statement)は、定期的に見直しと改訂がなされている。今回は、Breastfeedingを始め20の所信声明の見直しが承認された。新たな所信声明は、事前提案7つ全て承認された(表1参照)。特に、「移民・難民の女性とその家族」、「LGBTのケア」には多くの支持の拍手が上がった。「出産のヒューマニゼーション」についてはブラジルの活動が例にあげられたが意見交換に留まった。

これまでも採択された所信声明は、加盟3団体により翻訳され各3団体のHPに掲載されている。

(<https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icm/basic/statement/index.html>)

今期採択されたものも、この後翻訳の作業に入り随時HPに掲載される。

<ICMのコンピテンシーの活用について>

本件は、事前に合意形成の一つであるデルファイ法により、加盟団体からの意見の集約がなされていた。それらを受けて「Update of the International Confederation of Midwives Essential Competencies for Basic Midwifery Practice April 24, 2017 - DRAFT」が紹介された。また評議会では以前(2010、2013年)のコンピテンシーとの方法論および結果の比較の詳細が説明された。説明後には、各国の活用事情とその弊害等について、グループワークでの意見交換がなされた。この結果は、研究として後日報告される予定である。

<その他のトピックス>

- ①2017-2020年の国連への参加は、NY、Genevaの団体の参加が承認された。
- ②Ms. Joyce Thompsonから、ICMの歴史プロジェクトの進捗状況が報告された。

<これからの学術集会について>

2017年第31回トロント大会、2020年第32回バリ大会が決定している。

今回は、第33回大会(2023)の投票が行われた。チリ、ドイツ、アラブ首長国連邦は、評議会の初日からロビーでの広報活動を行い、最終プレゼンの後、投票が行われた。その結果、アブダビが過半数51.6%を超え、第33回大会の開催年に決定した。

3.終わりに

今回、谷口初美氏がAsia-pacific region地区理事に選ばれたのは、南野知恵子氏、松本八重子氏、近藤潤子氏に続いて4人目となる。日本は、ICMの加盟団体数および人数から算定される登録金額も最も上位にある。我々はICMにおける役割の果たし方を、ICM加盟3団体でも意見交換し、谷口氏を通して積極的に提言していくべきであろう。



表 1-1 所信声明の見直しと改訂

1	分娩第3期における生理学的管理
2	正常な妊娠、出産、産褥期のための適切な出産サービス
3	帝王切開の適切な実施
4	出産時の適切な介入
5	母乳育児
6	新生児のケア
7	助産の規制と女性との協力関係
8	災害時の女性と子どもの健康
9	女性器切除
10	出産における伝統と文化
11	自宅出産
12	助産：自律的な専門職
13	助産師主導のケア
14	助産師、女性と人権
15	産科フィスチュラの予防
16	女性と助産師の協力関係
17	計画妊娠と家族計画
18	女性とリプロダクティブ・ヘルスサービスのための契約と資源
19	妊娠中の喫煙と受動喫煙の軽減に向けた前向きな行動
20	製品情報の展示

表 1-2 新規の所信声明

1	助産の定義
2	助産師と薬剤耐性の拡大防止
3	ICM と FIGO の共同声明：非医学的な性差による偏見に伴う性別選択
4	マタニティケアの提供におけるコミュニティ・ヘルス・ワーカーの役割
5	先住民助産師と非先住民助産師間の協力関係
6	助産師とレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・インターセックスの人たちの人権
7	移民・難民の女性とその家族

2017年 第31回 ICM Triennial Congress 報告

日本助産学会 理事長 高田昌代

3年毎のICM（The International Confederation of Midwives）Triennial Congress 2017年（31回）は、緑と水の国カナダ・トロントで開催されました。6月18日のパレードに始まり開会式のフラッグセレモニー、演題発表やパネルディスカッションなど大きな建物をくまなく使い、閉会式の22日まで、早朝から夕方まで交流、ディスカッションなどが繰り広げられました。

日本からの参加者は参加国中5番目に多い約200名強の助産師が参加し、約110題の演題が発表されました。また、今回は初めての試みとして日本看護協会、日本助産師会、日本助産師会、全国助産師教育協議会、日本助産評価機構とが共同で日本の助産師のことをアピールするブースを出しました。

今回の大会のテーマは Midwives making difficult on the world（助産師は世界を変える）と、オーロラの空に母子が浮かびあがったポスターに書かれ、助産師にとって勇気が与えられるテーマでした。4つのサブテーマは

- 1.助産師は：リーダーシップを通して変革する
- 2.助産師は：専門性を通して変革する
- 3.助産師は：パートナーシップを通して変革する
- 4.助産師は：女性と少女の権利を支援することを通して変革する。

このテーマに沿った基調講演が行われ、助産師の役割を考えさせるプログラムとなっていました。

大会テーマの他に、今回の全体から感じられたのは、カナダ先住民の方々の文化、すなわち

お産という文化を大事にしようとしており、「トロント」は先住民の方の言葉の「集まる場所」と先住民の方々の言葉を使っているように、先住民の方々の土地だったところに他の民族が移民として暮らしている国で、人々の尊重や敬意がケアの根底に流れているところが多くありました。

●パレード

18日、太鼓や笛などによるアップテンポの曲に合わせて、世界の国の助産師がステップを踏み、踊り、「Midwife」と声を合わせ、道路をパレードです。道路は警察官によって規制され、1ブロック以上の長さの大パレードでしたが、日本からの参加者は少なく少し残念でした。次回は他の国を真似て、横断幕や国旗、鳴り物を準備して、多くの日本の助産師と一緒にパレードを楽しみたいものです。



パレードの様子

●お祈り

開会式の前に、お祈りのセッションがありヒンドゥー教、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教のお祈りが、感謝とともにありました。そのあと、若者やカナダ助産師によって、厳かというより庶民的・大衆的なリラックスした雰囲気なかでのコーラスが響きました。コーラスをしている助産師の胸には赤いメープルの葉、指揮者はお洋服の後ろにもたくさんのフェルト製のメープルがマジックテープで止めていました。その葉をよく見るとハンドメイドで、どこの国の助産師もつつましくそして知恵に富んでいました。



カナダ助産師会助産師によるコーラス

●開会式（フラッグセレモニー）

ICM 会長等の挨拶の後、参加国のフラッグセレモニーが始まり、「JAPAN」の声で赤い振り袖姿の日本助産師会の岡本会長が大きく国旗を振って入り、国旗を手にした日本の参加者から、国旗を手に大きな声援があがりました。日本助産師会と twinning Program 相手国のモンゴルからは不参加だったため、谷口初美さんがフラッグをはためかせ、双子のお姉さんの役割を果たしました。



フラッグセレモニー

●ICM 会長の交代

これまで ICM を率いてきた Franka Day-Stirk 氏への感謝のAward贈呈が行われました。これまでの数々の功績とそのリーダーシップの紹介はもちろんのこと、世界の助産師への敬意を払っておられました。Awardのために贈呈された杯は、トラウベの形をしており、まさに助産師！であり、会場から歓喜の大きな拍手が送られ、誇りを感じさせる式典が繰り広げられました。

新しい ICM 会長は、オランダの Franca Cadee 氏で、これまでの多くの実践に基づいたエネルギッシュな雰囲気が醸し出され、会場から期待の高まりが沸いていました。

●閉会式

今回の2020年のICMはバリ(インドネシア)で開催されます。開催国のインドネシアの助産師によるセレモニーは艶やかな民族衣装と扇子で、Welcomeアピールをされました。また、次々

回 2023 年の ICM はアブダビ（アラブ首長国連邦）で開催されます。いずれの会も日本からの多くの発表と参加者を期待します。

今回、参加者の方に印象的だったプログラムの紹介に快くお受けいただいた内容をご紹介します。

●プログラムの紹介

31STICM Triennial Congress 2day
(Wednesday, 21, June) 9:00~10:30

Plenary3 Midwives: Making a Difference Through Supporting Women's and Girls Rights

Kate Gilmore の講演を聞いて

長野県看護大学 清水 嘉子

Kate Gilmore は、オーストラリア出身で、国連人権高等弁務官や国連人口基金で性暴力に対する基金を設立するなど多彩な経験を持つ。母親が助産師であり、講演は助産師に対する感謝の言葉、いくつものありがとうを繰り返していました。

助産師は、何かあったときに、女性のそばにいて寄り添い、新しい命に対して平等で、人間らしさをもたらす最も広い仕事をしていると話していました。世界がつながっている今、都会やスラム化した都市に住む人が増え、移動をして暮らす人が多くなりました。こうした時代に、個人主義、独裁主義、抑圧と戦って行くこと、弱い立場の人に寄り添い真実を語ることを訴えていました。トランプ大統領が国連へのリプロヘルス基金を止めたことで中絶が増え、安全でない出産により女性の死につながることを危惧している、人権を守ることは好き嫌いにかかわらず、ある人を守っていくことだと話していました。聴衆は劇を見ているようなその語り口に引き込まれました。30分ほどの格調高い講演に皆立ち上がって拍手を送りました。その後座長と4人のパネラーによるパートナーシップに関するシンポジウムが行われました。



熱心に聞く参加者 講演会場

●ブースの紹介

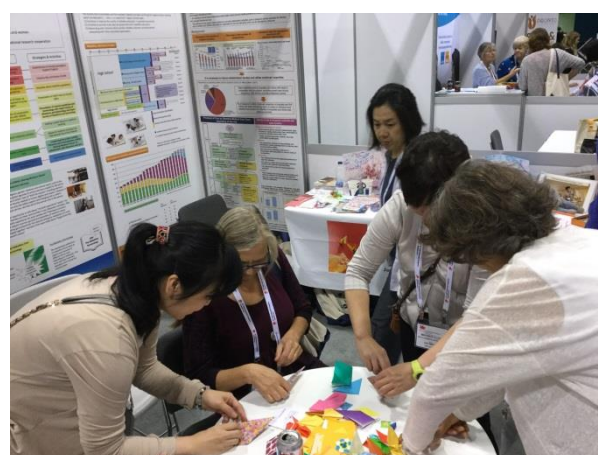
静岡県立大学 藤田景子

日本助産学会、日本助産師会、全国助産師教

育協議会、日本助産評価機構、日本看護協会の5団体で共同のブースを出しました。日本の助産師の歴史や日本の助産教育について等、日本における助産師の養成状況から活動状況までを広く紹介しました。各国の助産師たちが興味を持ってくださり、自国の制度と比べながらの質問等、多くの助産師たちが集まり交流をすることができました。さらに、日本の折り紙やアニメのシールを日本から持ち込み、ブースで尋ねてくれた海外の助産師たちと鶴を折ったり、それをプレゼントしたり、アニメの話でも盛り上がり上がり、日本の文化にも触れながら海外の助産師たちとの交流ができました。日本の方も多くブースに立ち寄ってくださり、一緒に鶴を折ってくれました。日本の文化や助産師の活動を多くの海外の助産師に知っていただくブースを設けることで、日本人と海外の助産師の交流も進んだのではないかなと思います。素敵なおひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。



ブース展示



ブースの様子

2018年度 日本助産学会 研究助成公募

学術振興委員会委員長 葉久 真理

応募締切日:2017年11月17日(金)消印有効

以下の研究助成を公募中です。

<http://square.umin.ac.jp/jam/grant.html>

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

応募資格

日本助産学会員として2年以上加入している会員であること
研究分担者は会員であること（加入年数は問わない）

申請書の請求

日本助産学会ホームページ「研究助成案内」

から【申請書類】をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛にご送付ください。

研究課題

奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。

助成規模

- 1) 奨励研究助成A：助成金額が、1件あたり100万円以内。1件程度
- 2) 奨励研究助成B：助成金額が、1件あたり30万円以内。3件程度
- 3) 若手研究助成：助成金額が、1件あたり30万円以内。3件程度

助成期間

研究者への助成期間は、原則として2年間とします。

助成者の決定および通知

助産学会理事会で審議、採否決定後、主研究者に通知いたします。

応募に関しての留意点

申請書は、楷書（パソコン等での作成を推奨）でご記入ください。

申請書並びに別刷り、参考資料等の提出に関しましては、ホームページの助成実施要項をよくご確認ください。

提出された申請書は返却いたしませんので予めご了承ください。

最終に提出された報告書は、原則として日本助産学会のホームページに掲載する予定です。

問合せ先

一般社団法人日本助産学会事務局
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第2ユニオンビル 4F
（株）ガリレオ 学会業務情報センター内
E-mail：g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp
/TEL：03-5981-9826 /FAX：03-5981-9852

多数の応募をお待ちしております！

2017年度 助産政策ゼミ～助産政策に必要な助産ケアのエビデンスご案内

助産政策委員会

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

場所：日本赤十字看護大学 203 教室

内容に関する詳細は、下記ページのチラシもしくは、日本助産学会ホームページにも掲載しています。

http://square.umin.ac.jp/jam/docs/20170425_doc.pdf

日時：9月24日(日)、10月22日(日)、
11月23日(木祝)

主催：一般社団法人 日本助産学会 助産政策委員会
助産政策ゼミ
助産政策に必要な助産ケアのエビデンス

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

	日時	内容
第1回	5/14(日)	助産と政策について：今、なぜ助産政策なのか？
第2回	7/23(日)	Lecture: 訪問看護ステーション起業立ち上げの know-how 「助産師による切迫早産妊婦の訪問看護・指導料の要望」の取り組み
第3回	8/27(日)	Lecture: 診療報酬評価：技術評価について 乳腺外来との連携について 「乳腺炎管理技術指導料の要望」の取り組み
第4回	9/24(日)	Lecture: 診療報酬評価：体制評価について 「助産外来・院内助産所に対する体制評価の要望」の取り組み
第5回	10/22(日)	Lecture: 研究からみる混合病棟の現状と課題について
第6回	11/23(木祝)	Lecture: 助産政策立案のための研究について ～助産政策に結びつけるためには、どんなデータが必要なのか？～

参加費
1回

会員：1,000円、非会員：2,000円
学生・院生：無料

時間

13：00～15：00

会場

日本赤十字看護大学 203 教室
東京都渋谷区広尾4-1-3 (日比谷線広尾駅徒歩15分)

●お問い合わせ・申し込み●

参加希望の方は、お名前・ご所属・参加希望日を下記のアドレスまでお知らせください。なお、参加費は当日ご持参ください。

片岡弥恵子（聖路加国際大学） E-mail: kataokakaken@slcn.ac.jp

ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

ICM 支援のための募金を常時受付けております。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における

助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

今年度(平成29年度)会費(10,000円)納入のお願い

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願いいたします。

なお、今年度は代議員および理事・監事の選挙の年です。6月末までの会費納入者が選挙人対象者となりますのでご了承ください。

会費のご請求書が届いた方は、早急にお振込み下さい。

会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

・郵便振込: 00120-2-763540 加入者名: 一般社団法人日本助産学会
通信欄に会員番号と納入年度を明記

銀行振込: ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)(当座) 0763540

一般社団法人日本助産学会

(シヤ)ニホンジヨウサカケカイ 氏名と会員番号を通知

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先にE-mailかFAXでご連絡ください。

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。

なお、今年度より年会費の書類(請求書・領収書等)の発行が会員情報管理システム上から、オンラインでの即時発行が可能になりましたので是非ご利用ください。

詳細はこちら:

http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt_issuance_manual.pdf

※但し「口座引落」ご利用の方は、振替結果データ受

信後となるため日程の都合上オンライン領収書の発行は、引落日から一週間後以降となりますのでご了承ください。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム:

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/author/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意くださいなのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～29巻は2,500円、30巻は3,500円(各1部)。日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

※「エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売(株)日本助産師会出版)となっておりますので、以下のURLからお申し込みください。

<http://www.midwifepc.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002

東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。